

第20回
太陽地球惑星系科学
シミュレーション分科会

2018年5月23日17:10~

JpGU 2018 - 地球惑星科学連合2018年大会

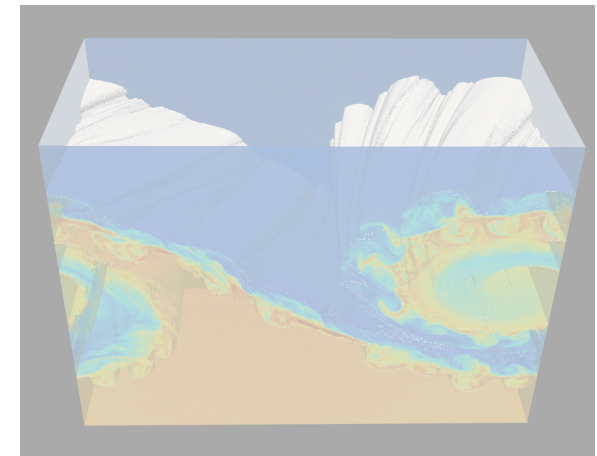
幕張メッセ国際会議場202室

アジェンダ

1. リコネクション研究会の開催案内（銭谷）
2. 国立極地研究所・極域科学計算機システム更新に向けて（岡田）
3. H30年度のSTEシミュレーション研究会の開催案内（埜）
4. 今後のSTEシミュレーション研究会のあり方について（梅田・三宅）

UJI Reconnection Workshop 2018

- 日時・場所：11月28日(水) 名古屋大学 研究所共同館2号館 3階ホール
(参考：11月23日(金)～27日(火) SGE PSS 秋学会@名古屋大学)
- 主催：銭谷誠司(京大生存研)、今田晋亮(名大ISEE)、河村聡人(京大花山)
- 招待講演：
 - 中村琢磨さん(オーストリア科学アカデミー)
 - Nakamura et al. *Nature Communications*, **8**, 1582 (2017)
 - Nakamura et al. *J. Geophys. Res. Space Physics*, **122**, 11505 (2017)
 - (他1～2名、選考中)
- 旅費補助はありませんが、研究熱心な皆様のご参加を歓迎いたします。



国立極地研究所 極域科学計算機システム更新に向けて

- 2020年2月に新システムへの更新を予定しております。
- 現在、新システムへの要望をまとめる作業を進めており、利用者アンケートを実施する予定です。
- 2018年7月初旬に研究集会を開催し、大規模シミュレーションによる研究、データ解析による研究の方向性を紹介していただき、仕様にまとめる作業を進めたいと考えています。
- IoT, AI等を活用した新規計画、アイデア等も歓迎します。

担当：国立極地研究所 情報基盤センター

岡田雅樹

okada.masaki@nipr.ac.jp

STEシミュレーション研究会 2018

—プラズマ-大気複合システムのシミュレーション研究—

※名古屋大学宇宙地球環境研究所 研究集会採択済
極地科学研究所 研究集会採択済
共催：成蹊学園サステイナビリティ教育研究センター

日時：平成30年9月3-5日
場所：成蹊大学 理工学部



吉祥寺駅から
徒歩15-20分

(成蹊大・藤原均教授のご協力)

STEシミュレーション研究会 2018

—プラズマ-大気複合システムのシミュレーション研究—

※名古屋大学宇宙地球環境研究所 研究集会採択済
極地科学研究所 研究集会採択済
共催：成蹊学園サステイナビリティ教育研究センター

日時：平成30年9月3－5日

場所：成蹊大学 理工学部

招待講演：

- ・ 全球大気シミュレーション：三好勉信先生(九州大学)
- ・ 粘性/抵抗性リコネクション計算：蓑島敬先生(JAMSTEC)
- ・ 輻射抵抗下のリコネクションと天体-磁気圏角運動量輸送：
高橋博之先生(国立天文台)
- ・ 磁気圏シミュレーション最新知見：TBD 問合せ中
- ・ ブラソフ方程式の高精度数値解法：TBD 問合せ中

お問い合わせ：埜まで

今後のSTEシミュレーション研究会の あり方について

- 背景

- H30年度の課題申請より、ISEE研究集会の申請額
の上限が30万円になった。
- H30年度の実績として、採択集会の充足率は6割。
- これまでは、約60-80万円の申請に対し、充足率は6
割弱であった。

⇒実質的にこれまでの半額に

- 「申請額の上限30万円」の方針が今後も継続される
可能性が極めて高い。

⇒今後、ISEE研究集会単独サポートでのシミュレー
ション研究会の開催は不可能

今後のSTEシミュレーション研究会の あり方について

• 方針提案

– 開催期間の削減(3日間を2日間へ)?

⇒実質、サポート人数が4名から5名に変わるだけ

– 複数の機関(RISH・NIPR)への申請?

⇒世話人・幹事の負担増

– 他の研究集会との合同開催?

⇒相手方との調整で世話人・幹事の負担やや増

– 少人数研究集会への切り替え?

⇒H25までは「技法勉強会」を行っていた

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
講演件数	20	29	28	31	26	28	21
サポート数	10	13	17	15	12	12	8

今後のSTEシミュレーション研究会の あり方について

- 会合出席者から出た意見

議論の結果、以下の基本方針を確認

1. 一人あたり長めの時間をとることで、(春と秋の学会では実質上困難な)詳細な議論ができることが重要
2. 研究会の副題としてテーマを定めるが、一般講演はそれにとらわれず、幅広いテーマを受け入れる方針は維持
3. 招待講演者はテーマとしてある程度統一感がある人選を行う
4. 本研究会を、ISEE計算機共同利用の成果報告の場として活用している人もいるため、ISEE研究集会への申請は継続
「一般講演者への旅費サポート」は従前のようにはできなくなるとしても、上記の枠組みを維持することが望ましい

今後のSTEシミュレーション研究会の あり方について

• その他の提案・意見

- 他の研究会では複数の機関(2~4件)に申請することは普通に行っている
- 複数の機関へ申請する場合も、申請書の中身はある程度共通化できる
- むしろ報告書の方が大変になるかもしれない
⇒負担が大きくなるようであれば、世話人増が必要
- 一般講演者への旅費補助が手薄になると参加可能な人が現在よりは減ると予想されるので要対策
- 名大HPCや京大KDKのスパコン成果報告会と合同にするのはどうか
⇔名大HPCの場合、そもそも旅費補助がない
⇔京大RISHの場合、日程が年度末に限られてくる
- 既に存在する他の研究集会との合同開催であれば負担増はわずかではないか
⇔日程調整は大変になるかもしれない
- JpGUやSGEPSS総会のセッションに招待講演を呼べば別途研究会をしなくてもよいのではないか
⇔一人あたりの発表時間を余裕を持たせるのはセッション内では難しい。ISEE研究集会という形ではなくなる
- JpGUやSGEPSS総会の前後に日程を設定する案

今後のSTEシミュレーション研究会の あり方について

- 今後の進め方

提起された内容のうち、世話人の負担に関わる部分については分科会幹事で議論を詰める必要がある。H30年度のシミュレーション研究会の中で、あらためて次年度以降の方針を議論する。